

標 題 : Prostate cancer incidence and mortality trends in 37  
European countries: an overview.

ヨーロッパ 37 カ国における前立腺がんの発症率および死亡率 : 概 説

---

著 者 : F. Bray, et al. (フランス リヨン 国際がん研究機関 がん情報科)

---

掲 載 誌 : Eur. J. Cancer. 2010 Nov; 46(17): 3040-52

---

要 旨 :

前立腺がんは過去 20 年間にわたって発症率が急激に増え、ヨーロッパで男性の間で最も頻度の高いがんとして現れた。

入手できる比較可能なデータによると 24 カ国で発症率は一様に増加したけれども、非常に高い比率の数カ国 (スウェーデン、フィンランドとオランダ) では発症率は過去 3-4 年の間に低下し始めた。

最高の前立腺がん死亡率は、バルト海地域(エストニア、ラトビアとリトアニア)およびデンマーク、ノルウェーとスウェーデンに存在した。

前立腺がん死亡率は、ヨーロッパ 37 カ国中で各地域内では主に高資源国と考えられる 13 カ国で低下し、始まりはイングランドとウェールズ(1992 年)、そして最近ではチェコ共和国(2004 年)であった。

年間の低下程度にはかなりの変動があり、スコットランドの約 1%(1994 年から)からハンガリー、フランスとチェコ共和国における最近の 4%を超える低下まであった。

発症率の増加の程度(1990 年代後半)と最近の死亡率低下との間には小さな関連しか見られない。

どの程度の発症率の増加傾向が真のリスクを示すか、そしてどれくらいが潜在的疾患の検出によるものかは、明らかでない。

1990 年後の死亡率低下は、治療の改善および前立腺特異抗原(PAS)検査の効果が原因であろう。

バルト海地域および中欧と東欧の諸国で観察された死亡率の増加はリスクの真の増加を反映すると見えるので、さらに追跡を必要とする。

---